

農業への思いや魅力伝える

生産者グループ「豊橋百農人」 若者と初の座談会



技術・情報発信・販売力を併せ持った生産者でつくる「豊橋百農人(ひゃくのうじん)」(鈴木義弘代表)は9日夜、豊橋市藤沢町のホテル日航豊橋で若者らとの座談会を開き、農業などをテーマに意見を交わした。

豊橋、田原など東三河地域は全国有数の農業産地帯の一方、後継者不足などの課題があり、若者に農業を知ってもらおうきっかけにしようとして座談会を企画。

豊橋百農人から生産者ら10人、若者の育成や地域の活性化を目指す「ほの国プロジェクト」から20歳前後を中心にした6人が参加した。

「自然相手に難しい面もあるが、成功したときの喜びはものすごく

い」「だれにでもできる仕事ではない。プロ野球選手のようにプロとして評価されている職業」「農業はやり方次第で自分にかえってくる」など、生産者が1人ずつ、就農のいきさつを語りながら農業の魅力などを話した。

農業という職業のイメージについて「土や植物、動物に触れ、健康に良さそう」「農業人と接する機会がなく、発信も少なく、職業の選択肢にならない」などと話していた若者らだが、生産者の熱い思いを聞いて「知らないことはかりだった。思っていたイメージと違った」「1人1

人が誇りを持って生産していることが分かった」と感想を述べた。(中村晋也)